

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370201299		
法人名	王慈福祉会		
事業所名	グループホーム 蔵の家		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町5丁目2-54		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 12 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370201299-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染防止の為、定期的な換気と消毒を行っています。ご利用者様と共に職員の健康チェックを行い、体調変化の早期発見に努めています。入居されているご利用者様の一人一人の個性を大切に、また、残存能力の維持のため、ご利用者様の負担にならないように気を付けながら自分で出来ることはして頂いています。今までされていたように食事の準備のお手伝いや洗濯物をたたんだりして頂き、家庭にいる雰囲気を出すように努めています。また、外食を希望される時は、出来るだけ希望される場所へ行けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は常に「明るく、元気」をモットーに同施設内のクリニックや特養とも連携をして、利用者の関係を深めている。スタッフも利用者が委縮せず何でも言えて、管理者とケアマネもとても仲が良く、みんなと同調して雰囲気づくりを醸し出し、利用者その人その人の生活特性を常に考えている。お手伝いが好きな人、編み物が好きな方等、自由奔放にできるように導いているから、楽しさが溢れている。現在は理念の代わりに4つのキーワード、「食」(食い力)、常に心が「笑」で(豊かな生活)、「色」(個性を引き出すことで、幸せな関係)、「和」(利用者・家族、職員が協調できる時の流れ)を掲げて施設理念の「こころゆたかにすこやかに」を目指し、職員にさりげなく浸透してきた。特に、職員の行動を理由確認し、全員が周知しやすい誰でも書ける連絡帳や解らないことは、すぐ聞ける体制を習慣づけているので、職員も永年勤務しやすく、和んだ施設となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころゆたかに、すこやかに」の理念に基づき、利用者の方が穏やかな日々を過ごせるよう、職員同士で意見を出し合い共有している。	業務中や月末・担当者会議の際に、職員の意見を聴取して運営に活かしている。「こころゆたかに、すこやかに」を「和」「笑」「色」「食」とわかりやすい言葉に変換したことで、自然と体に染みつくように心掛けている。	目標を可視化してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの感染予防の為、地域の方との交流は控えました。	テラスで洗濯物を干している際に、近隣の人々と挨拶や会話を交わす関係ができています。施設に併設されているケアハウスの人との交流も継続されていて、野菜を頂いたり、おしゃべりを楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、地域の方との交流がなく、認知症の方の理解や支援方法をお伝えする事は出来ませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度新型コロナウイルス感染防止のため、紙面で入居状況等の報告は行っております。	コロナ前の会議には、地域包括・他GHの職員・民生委員・管理者・ケアマネ・利用者・家族が参加していた。現在は郵送にて、入居状況とお知らせの報告を行っている。世間話から民生委員の方が運動療法を実施したことが、利用者に好評だった。	町内会や委員会の方に、直接意見を言えるような関係を作ってみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は、近況報告や日々の相談として、包括の職員へ連絡している。	包括の方は、利用者の健康状態を気にかけてくれているので、よく連絡をして頂いている。市町村との関係は、気安く何でも相談できて、親密な関係が深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や研修を行い、身体拘束について考える機会を作っています。	研修は、3ヶ月に1回開催。身体拘束はしていないので、行動制限の話が主となっている。スピーチロックにも配慮し、相手が納得できるような言葉かけをしている。虐待に当たるかどうかを常に意識して行動することを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミで報道されたことなども申し送りや話し合いをする等防止に努めている。、定期的に内部研修を行う等意識を高めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が研修に参加する事は難しいが、成年後見が必要なケースでは、会議などを通じて制度の周知を改めて行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様とご家族に十分な説明を行い、疑問にも丁寧に答え、不安や不明な事が無いよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様とは、居室で共に過ごしたり、会話や表情から思いを受け止められるように努めています。また、ご家族にはケアプラン作成時などに意見・要望の聞き取りを行い、手紙や電話で利用者の近況を報告して、思いや意見を聞くように努めている。意見や苦情を言うことで、退所して欲しいなどと言うこととは無いなどを伝え、消極的にならないように努める。	窓越し面会や電話にて家族の意見を聴取している。毎月、家族に行事の写真と近況報告の手紙を添えて郵送していることが家族には大好評である。入院後に、歩けるようにしてほしいとの要望があり、現在は歩けるようになるまで回復した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案に関しては、その都度話し合う場を設けたり、日々の申し送りや連絡ノートを活用し意見交換や共有を行っています。	連絡帳を活用したことで、職員全員で現状を把握できるようにしている。口頭でも伝えることによって、現状をより把握できるように工夫している。勤続年数が長い職員が多く、年齢に関係なく何でも言える関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部に研修に参加しています。また、日々の業務の中で、職員の行動に対し、必要であれば周りの職員も巻き込み、一緒に考えるようにしています。資格取得には勤務調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為、同業者との交流は行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を必ず行い、ご本人と話をを行うようにしている。その中で、心身の状態や求めている不安などを聞くようにしています。必要であれば、家族の同意を求め、席を外してもらうなどして、話しやすい環境を作るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事、要望などを面談の時間を設け伺い、どのようなケアを行っていくか共に考えて信頼関係を気付けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との面接以外でも、生活や身体の状態、バックグラウンドなどを事前に情報収集し、本人の状態を確認した上で、どんな支援が必要か考え、ケアプランを作成し、職員全体で共有し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を教えてもらったり、地域の歴史など知識を教えてもらったりしています。得意な事等は主体となって取り組んで頂いたり、一方通行にならないよう、意見を取り入れながら環境作りや行事計画など行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事は、毎月のお手紙や写真にてお伝えしています。また、定期通院などを、ご家族に同行して頂いたり、ご家族とご利用者様で電話をする時間を作るなどしています。ケアプランの作成時にはご意見を伺い参考にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため、面会等は控えて頂いていますが、電話で話をしたり、馴染みの場所へドライブに出かけたりしています。	食後におしゃべりをしたり、テレビを観たりして利用者同士が過ごすことで、施設内に馴染みの関係ができた。本格的に歌を歌う時には、居室に戻ることで、居室が新たな馴染みの場所となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が良好に進むように、職員が間に入って円滑になるようにしています。また、気の合う者同士で過ごせる場面を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者に対して、本人についての情報やケアの工夫、本人がどのようにして今にいたるかなどを伝え、連携が図れるようにしています。また、入院などにより退居した場合でも、相談や困っていることがあれば協力できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用様がどのような生活を望んでいるのかを一緒に考え、家族や関係者から情報を得るようにしています。そして、ご本人にとって何が必要かを話し合い、ケアプランなどに反映させています。	言葉を発しない人へは、表情や行動で読み取っている。落ち着かない動きがあれば、利用者に寄り添うことで、快適に生活できるように支援している。利用者の事を考えて無理強いはさせないように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人を始め、ご家族や関係者にバックグラウンドを伺い把握しています。また、日常の会話からも情報を得て生活に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態の変化について、記録し、報告・連絡・相談をして把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、ご家族や関係者と連絡を取り合い、意見や要望を聞くようにしています。ケアプランを実行する事で、利用者の生活が豊かになるよう、家族や関係者の意見や要望も交えて、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。	各担当職員がたたき台を作成し、会議の中で他の職員の意見や提案を聞いて、カンファレンスを行い、個々の状況に沿ったケアプランを作成している。介護計画は何かあればその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきやご利用者様の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報提供を徹底しています。また、個別のケア目標を記録するシートを作っており、それを基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に合わせて、今まで通っていた病院への受診や買い物等、感染予防を行いながら可能な限り実現できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、地域交流は控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医や希望の病院へ受診しています。また、状態によっては複数の病院を受診して、ご本人やご家族が納得して適切な医療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医は選べるが、半数以上の方が転医されている。訪問診療をするかどうかも選択でき、利用者にとって一番良い医療が受けられるように配慮している。他科へは、利用者の状態を把握しているので、職員が連れて行き、後で家族の方へ報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図り、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設として、どのような状態であれば対応可能かなどを医師やご家族に伝え、三者で話し合いが出来るようにしています。また、ご家族とも回復状況などの情報交換をしながら、早期退院を目指し、退院後の生活に向けて、医師や看護師などから情報を収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側の出来る最大のケアについて説明を行い、ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師と家族と職員が連携を取り、安心して納得のいく最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいます。	ターミナルは実施していない。入居時にできること、できないことの説明をし、同意書を交わしている。看取り期に差し掛かった際には再度、説明をしている。年1回、資料を見返す機会を設けることで、看取りの基本を忘れないように工夫している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急対応についてのマニュアルを作成しています。その本人の状態に合わせた応急処置や対応について、医師や看護師より支持を仰いで、全職員で周知徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の消防訓練を行っています。また、消火器や避難経路の確保などの設備点検も定期的に行っています。ハザードマップを掲示して周知しています。	年2回昼夜想定で、津波と火災訓練を実施した。事務所にハザードマップと緊急連絡網を掲示している。3ヶ月に1回、連絡網と安否確認メールが各職員に届くことで、緊急時に即対応できるようにしている。備蓄は併設の事務所で一括管理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけについては、定期的に会議で話し合う場を設けたり、相互注意を行い、常に意識できるようにしています。共同生活の中で、プライバシーにかかわる内容を扱う場合は、周囲へ影響が無いよう声の大きさや、場所が適切であるかを常に心掛けています。	呼称は、基本的に苗字に「さん」付け。希望の呼び方がある場合には、その人に合わせた呼び方をすることもある。ノックをして「お邪魔します」と言葉を添えてから入室している。トイレ誘導の際には、さりげなく誘導することでプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方には、必ず選択してもらうようにしています。意思表示できない方には、バックグラウンドを参考にしたり表情や仕草などで読み取るよう努めています。また、家族や関係者に聞き取りを行い、判断する材料にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や思いを伺いながら、レクリエーションの提供などペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋カラーやパーマなど希望されたり、スキンヘアやお化粧をされる方もおり、その都度対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、味見をして頂いたりしています。食事の際は、職員も利用者も一緒にテーブルを囲んで食べるようにしています。調理や下ごしらえなども共に行っています。	食事は施設の台所で3食手作りしていて、毎日冷蔵庫と相談しながらメニューを考えている。親子丼を食している利用者から「美味しいです」の一言を頂いた。利用者が一番美味しく食べられるように、「炊き立て、出来立て、アツアツ」を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個別に確認し、チェック表に記入しています。嗜好も理解しており、苦手な物は別の物を作って提供するようにしています。食事がなかなか進まない方に対しては、声かけや介助だけでなく、本人の好む形を探して、形を変えて提供するなど工夫しています。食欲低下した方には、食事時間に限らず、食べれるときに少量ずつ食べ貰ったりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ見守りをし、必要に応じた介助や確認を行っています。状態によって医療へ相談し、道具や方法を工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握しています。尿意の無い場合は時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるように支援しています。また、時間だけにとらわれず、仕草や摂取量をみながら介助しています。紙パンツやパット類については、状態に合わせて利用しています。パッドも自力交換ができるよう保管方法やパッドの種類を工夫しています。	排泄チェック表を活用したことで失敗が減り、トイレ誘導のタイミングが把握できているので、「ようやくわかったな」と利用者から喜ばれた。トイレ内では、利用者の趣味の話で盛り上がり、貴重な意見を聴取する場ともなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分を摂ってもらったり、食材を工夫しています。また運動をしてもらったりして、便秘改善に努めています。訪問看護の際、アドバイスを貰ったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺いながら、個々のニーズに合わせた入浴が出来るよう支援しています。入浴を拒否される方については、日を改めたり、どうすれば入って頂けるかを検討し、安心して入浴できる様工夫しています。	週2～3回の提供。お風呂好きな利用者が多く、「朝に入るのは贅沢じゃなー」後で、お酒でも出してくれるんじゃろな」と肩を震わせながら喜んで入浴される。急に入りたいと申し出た場合でも対応していて、リフト浴も人気が高い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、個々のペースに合わせて休んで頂いています。就寝に向けてリラックスできるような居室などの環境作りをしています。眠れない時には寄り添い不安なく過ごせるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の一覧をファイルして、職員が内容を把握できるようにしています。また、副作用に注意して、副作用によって起こる症状を理解し、医師に相談を行います。服薬の際には、指名、日付、朝昼夜を声に出して読んでから手渡し・服薬確認しそれにより、他の職員も確認できるようにしています。処方変更があった場合も、変化など医師へ報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、植物の世話など、それぞれの経験を活かせる場面を作っています。入居前に行っていた趣味を継続できるよう準備し提供しています。散歩やドライブをし気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、新型コロナウイルスのため、散歩やドライブを主に行いました。外出行事を控え施設内で楽しめるよう行事を計画し行いました。	人混みを避けて、瀬戸大橋やドライブがてら蓮の花を見に行き、カメラの前でポーズを取るのが楽しみの一つとなっている。夏祭りのチラシやチケットを開催前に作って、屋台風の焼きそばと交換したり、ヨーヨー釣りや盆踊りの練習から、個々の楽しみを増やしたりして、外出の代わりとなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の方には、お金を所持し管理して頂いています。欲しい物を買いにいかれたり、希望の物を購入する等、希望に添って支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時には掛けられるようにしています。手紙のやり取りや希望される方には、携帯電話を持参して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けてもらったり、飾り物やカレンダーは、どこに飾るか一緒に決めています。写真や作ったものを飾り馴染みの空間となるよう努めています。空調や照明も季節や時間により調整しています。居室やトイレ、台所などこまめに掃除をして清潔に保てるよう努めています。	明るい雰囲気のリビングでは、笑い声が絶えず、ティータイムを楽しんでいた。その後に職員と仲良く、生け花をしたり、歌を歌ったりして寛ぎ、壁面の行事の写真が、利用者の笑顔をほっこりと心に描かしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望により席を変えたり外が眺められる長椅子を配置するなどして、思い思いに過ごしてもらえるようにしています。また、テーブル間の距離を少し離して配置する事で気の合った人同士で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前から使用していたものを持って来て頂いています。ご家族とご本人を中心に配置を決めて頂き、できるだけ住み慣れた環境に近くなるようにしてもらっています。	カーテン、エアコンが備え付けで、適切な温度調節に気配りをしている。壁面には、笑顔の写真が掲示されていて、元気な姿が窺えた。また、応援している野球チームのポスターや帽子が置かれ、趣味趣向が表れている居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりが設置されています。トイレはわかりやすいように案内を表示し、居室は表札や飾りをつけ目印にしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370201299		
法人名	王慈福祉会		
事業所名	グループホーム 蔵の家		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町5丁目2-54		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 12 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370201299-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染防止の為、定期的な換気と消毒を行っています。ご利用者様と共に職員の健康チェックを行い、体調変化の早期発見に努めています。入居されているご利用者様の一人一人の個性を大切に、また、残存能力の維持のため、ご利用者様の負担にならないように気を付けながら自分で出来ることはして頂いています。今までされていたように食事の準備のお手伝いや洗濯物をたたんだりして頂き、家庭にいる雰囲気を出すように努めています。また、外食を希望される時は、出来るだけ希望される場所へ行けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は常に「明るく、元気」をモットーに同施設内のクリニックや特養とも連携をして、利用者の関係を深めている。スタッフも利用者が委縮せず何でも言えて、管理者とケアマネもとても仲が良く、みんなと同調して雰囲気づくりを醸し出し、利用者その人その人の生活特性を常に考えている。お手伝いが好きな人、編み物が好きな方等、自由奔放にできるように導いているから、楽しさが溢れている。現在は理念の代わりに4つのキーワード、「食」(食い力)、常に心が「笑」で(豊かな生活)、「色」(個性を引き出すことで、幸せな関係)、「和」(利用者・家族、職員が協調できる時の流れ)を掲げて施設理念の「こころゆたかにすこやかに」を目指し、職員にさりげなく浸透してきた。特に、職員の行動を理由確認し、全員が周知しやすい誰でも書ける連絡帳や解らないことは、すぐ聞ける体制を習慣づけているので、職員も永年勤務しやすく、和んだ施設となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころゆたかに、すこやかに」の理念に基づき、利用者の方が穏やかな日々を過ごせるよう、職員同士で意見を出し合い共有している。	業務中や月末・担当者会議の際に、職員の意見を聴取して運営に活かしている。「こころゆたかに、すこやかに」を「和」「笑」「色」「食」とわかりやすい言葉に変換したことで、自然と体に染みつくように心掛けている。	目標を可視化してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの感染予防の為、地域の方との交流は控えました。	テラスで洗濯物を干している際に、近隣の人々と挨拶や会話を交わす関係ができています。施設に併設されているケアハウスの人との交流も継続されていて、野菜を頂いたり、おしゃべりを楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、地域の方との交流がなく、認知症の方の理解や支援方法をお伝えする事は出来ませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度新型コロナウイルス感染防止のため、紙面で入居状況等の報告は行っております。	コロナ前の会議には、地域包括・他GHの職員・民生委員・管理者・ケアマネ・利用者・家族が参加していた。現在は郵送にて、入居状況とお知らせの報告を行っている。世間話から民生委員の方が運動療法を実施したことが、利用者に好評だった。	町内会や委員会の方に、直接意見を言えるような関係を作ってみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は、近況報告や日々の相談として、包括の職員へ連絡している。	包括の方は、利用者の健康状態を気にかけてくれているので、よく連絡をして頂いている。市町村との関係は、気安く何でも相談できて、親密な関係が深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や研修を行い、身体拘束について考える機会を作っています。	研修は、3ヶ月に1回開催。身体拘束はしていないので、行動制限の話が主となっている。スピーチロックにも配慮し、相手が納得できるような言葉かけをしている。虐待に当たるかどうかを常に意識して行動することを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミで報道されたことなども申し送りや話し合いをする等防止に努めている。、定期的に内部研修を行う等意識を高めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が研修に参加する事は難しいが、成年後見が必要なケースでは、会議などを通じて制度の周知を改めて行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様とご家族に十分な説明を行い、疑問にも丁寧に答え、不安や不明な事が無いよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様とは、居室で共に過ごしたり、会話や表情から思いを受け止められるように努めています。また、ご家族にはケアプラン作成時などに意見・要望の聞き取りを行い、手紙や電話で利用者の近況を報告して、思いや意見を聞くように努めている。意見や苦情を言うことで、退所して欲しいなどと言うこととは無いなどを伝え、消極的にならないように努める。	窓越し面会や電話にて家族の意見を聴取している。毎月、家族に行事の写真と近況報告の手紙を添えて郵送していることが家族には大好評である。入院後に、歩けるようにしてほしいとの要望があり、現在は歩けるようになるまで回復した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案に関しては、その都度話し合う場を設けたり、日々の申し送りや連絡ノートを活用し意見交換や共有を行っています。	連絡帳を活用したことで、職員全員で現状を把握できるようにしている。口頭でも伝えることによって、現状をより把握できるように工夫している。勤続年数が長い職員が多く、年齢に関係なく何でも言える関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部に研修に参加しています。また、日々の業務の中で、職員の行動に対し、必要であれば周りの職員も巻き込み、一緒に考えるようにしています。資格取得には勤務調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為、同業者との交流は行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を必ず行い、ご本人と話をを行うようにしている。その中で、心身の状態や求めている不安などを聞くようにしています。必要であれば、家族の同意を求め、席を外してもらうなどして、話しやすい環境を作るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事、要望などを面談の時間を設け伺い、どのようなケアを行っていくか共に考えて信頼関係を気付けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との面接以外でも、生活や身体の状態、バックグラウンドなどを事前に情報収集し、本人の状態を確認した上で、どんな支援が必要か考え、ケアプランを作成し、職員全体で共有し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を教えてもらったり、地域の歴史など知識を教えてもらったりしています。得意な事等は主体となって取り組んで頂いたり、一方通行にならないよう、意見を取り入れながら環境作りや行事計画など行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事は、毎月のお手紙や写真にてお伝えしています。また、定期通院などを、ご家族に同行して頂いたり、ご家族とご利用者様で電話をする時間を作るなどしています。ケアプランの作成時にはご意見を伺い参考にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため、面会等は控えて頂いていますが、電話で話をしたり、馴染みの場所へドライブに出かけたりしています。	食後におしゃべりをしたり、テレビを観たりして利用者同士が過ごすことで、施設内に馴染みの関係ができた。本格的に歌を歌う時には、居室に戻ることで、居室が新たな馴染みの場所となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が良好に進むように、職員が間に入って円滑になるようにしています。また、気の合う者同士で過ごせる場面を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者に対して、本人についての情報やケアの工夫、本人がどのようにして今にいたるかなどを伝え、連携が図れるようにしています。また、入院などにより退居した場合でも、相談や困っていることがあれば協力できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用様がどのような生活を望んでいるのかを一緒に考え、家族や関係者から情報を得るようにしています。そして、ご本人にとって何が必要かを話し合い、ケアプランなどに反映させています。	言葉を発しない人へは、表情や行動で読み取っている。落ち着かない動きがあれば、利用者に寄り添うことで、快適に生活できるように支援している。利用者の事を考えて無理強いさせないように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人を始め、ご家族や関係者にバックグラウンドを伺い把握しています。また、日常の会話からも情報を得て生活に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態の変化について、記録し、報告・連絡・相談をして把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、ご家族や関係者と連絡を取り合い、意見や要望を聞くようにしています。ケアプランを実行する事で、利用者の生活が豊かになるよう、家族や関係者の意見や要望も交えて、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。	各担当職員がたたき台を作成し、会議の中で他の職員の意見や提案を聞いて、カンファレンスを行い、個々の状況に沿ったケアプランを作成している。介護計画は何かあればその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきやご利用者様の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報提供を徹底しています。また、個別のケア目標を記録するシートを作っており、それを基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に合わせて、今まで通っていた病院への受診や買い物等、感染予防を行いながら可能な限り実現できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、地域交流は控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医や希望の病院へ受診しています。また、状態によっては複数の病院を受診して、ご本人やご家族が納得して適切な医療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医は選べるが、半数以上の方が転医されている。訪問診療をするかどうかも選択でき、利用者にとって一番良い医療が受けられるように配慮している。他科へは、利用者の状態を把握しているので、職員が連れて行き、後で家族の方へ報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図り、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設として、どのような状態であれば対応可能かなどを医師やご家族に伝え、三者で話し合いが出来るようにしています。また、ご家族とも回復状況などの情報交換をしながら、早期退院を目指し、退院後の生活に向けて、医師や看護師などから情報を収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側の出来る最大のケアについて説明を行い、ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師と家族と職員が連携を取り、安心して納得のいく最後が迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいます。	ターミナルは実施していない。入居時にできること、できないことの説明をし、同意書を交わしている。看取り期に差し掛かった際には再度、説明をしている。年1回、資料を見返す機会を設けることで、看取りの基本を忘れないように工夫している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急対応についてのマニュアルを作成しています。その本人の状態に合わせた応急処置や対応について、医師や看護師より支持を仰いで、全職員で周知徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の消防訓練を行っています。また、消火器や避難経路の確保などの設備点検も定期的に行っています。ハザードマップを掲示して周知しています。	年2回昼夜想定で、津波と火災訓練を実施した。事務所にハザードマップと緊急連絡網を掲示している。3ヶ月に1回、連絡網と安否確認メールが各職員に届くことで、緊急時に即対応できるようにしている。備蓄は併設の事務所で一括管理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけについては、定期的に会議で話し合う場を設けたり、相互注意を行い、常に意識できるようにしています。共同生活の中で、プライバシーにかかわる内容を扱う場合は、周囲へ影響が無いよう声の大きさや、場所が適切であるかを常に心掛けています。	呼称は、基本的に苗字に「さん」付け。希望の呼び方がある場合には、その人に合わせた呼び方をすることもある。ノックをして「お邪魔します」と言葉を添えてから入室している。トイレ誘導の際には、さりげなく誘導することでプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方には、必ず選択してもらうようにしています。意思表示できない方には、バックグラウンドを参考にしたり表情や仕草などで読み取るよう努めています。また、家族や関係者に聞き取りを行い、判断する材料にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や思いを伺いながら、レクリエーションの提供などペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋カラーやパーマなど希望されたり、スキンヘアやお化粧をされる方もおり、その都度対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、味見をして頂いたりしています。食事の際は、職員も利用者も一緒にテーブルを囲んで食べるようにしています。調理や下ごしらえなども共に行っています。	食事は施設の台所で3食手作りしていて、毎日冷蔵庫と相談しながらメニューを考えている。親子丼を食している利用者から「美味しいです」の一言を頂いた。利用者が一番美味しく食べられるように、「炊き立て、出来立て、アツアツ」を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個別に確認し、チェック表に記入しています。嗜好も理解しており、苦手な物は別の物を作って提供するようにしています。食事がなかなか進まない方に対しては、声かけや介助だけでなく、本人の好む形を探して、形を変えて提供するなど工夫しています。食欲低下した方には、食事時間に限らず、食べれるときに少量ずつ食べ貰ったりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ見守りをし、必要に応じた介助や確認を行っています。状態によって医療へ相談し、道具や方法を工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握しています。尿意の無い場合は時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるように支援しています。また、時間だけにとらわれず、仕草や摂取量をみながら介助しています。紙パンツやパット類については、状態に合わせて利用しています。パッドも自力交換ができるよう保管方法やパッドの種類を工夫しています。	排泄チェック表を活用したことで失敗が減り、トイレ誘導のタイミングが把握できているので、「ようやくわかったな」と利用者から喜ばれた。トイレ内では、利用者の趣味の話で盛り上がり、貴重な意見を聴取する場ともなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分を摂ってもらったり、食材を工夫しています。また運動をしてもらったりして、便秘改善に努めています。訪問看護の際、アドバイスを貰ったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺いながら、個々のニーズに合わせた入浴が出来るよう支援しています。入浴を拒否される方については、日を改めたり、どうすれば入って頂けるかを検討し、安心して入浴できる様工夫しています。	週2～3回の提供。お風呂好きな利用者が多く、「朝に入るのは贅沢じゃなー」後で、お酒でも出してくれるんじゃろな」と肩を震わせながら喜んで入浴される。急に入りたいと申し出た場合でも対応していて、リフト浴も人気が高い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、個々のペースに合わせて休んで頂いています。就寝に向けてリラックスできるような居室などの環境作りをしています。眠れない時には寄り添い不安なく過ごせるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の一覧をファイルして、職員が内容を把握できるようにしています。また、副作用に注意して、副作用によって起こる症状を理解し、医師に相談を行います。服薬の際には、指名、日付、朝昼夜を声に出して読んでから手渡し・服薬確認しそれにより、他の職員も確認できるようにしています。処方変更があった場合も、変化など医師へ報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、植物の世話など、それぞれの経験を活かせる場面を作っています。入居前に行っていた趣味を継続できるよう準備し提供しています。散歩やドライブをし気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、新型コロナウイルスのため、散歩やドライブを主に行いました。外出行事を控え施設内で楽しめるよう行事を計画し行いました。	人混みを避けて、瀬戸大橋やドライブがてら蓮の花を見に行き、カメラの前でポーズを取るのが楽しみの一つとなっている。夏祭りのチラシやチケットを開催前に作って、屋台風の焼きそばと交換したり、ヨーヨー釣りや盆踊りの練習から、個々の楽しみを増やしたりして、外出の代わりとなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の方には、お金を所持し管理して頂いています。欲しい物を買いにいかれたり、希望の物を購入する等、希望に添って支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時には掛けられるようにしています。手紙のやり取りや希望される方には、携帯電話を持参して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けてもらったり、飾り物やカレンダーは、どこに飾るか一緒に決めています。写真や作ったものを飾り馴染みの空間となるよう努めています。空調や照明も季節や時間により調整しています。居室やトイレ、台所などこまめに掃除をして清潔に保てるよう努めています。	明るい雰囲気のリビングでは、笑い声が絶えず、ティータイムを楽しんでいた。その後に職員と仲良く、生け花をしたり、歌を歌ったりして寛ぎ、壁面の行事の写真が、利用者の笑顔をほっこりと心に描かしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望により席を変えたり外が眺められる長椅子を配置するなどして、思い思いに過ごしてもらえるようにしています。また、テーブル間の距離を少し離して配置する事で気の合った人同士で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前から使用していたものを持って来て頂いています。ご家族とご本人を中心に配置を決めて頂き、できるだけ住み慣れた環境に近くなるようにしてもらっています。	カーテン、エアコンが備え付けで、適切な温度調節に気配りをしている。壁面には、笑顔の写真が掲示されていて、元気な姿が窺えた。また、応援している野球チームのポスターや帽子が置かれ、趣味趣向が表れている居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりが設置されています。トイレはわかりやすいように案内を表示し、居室は表札や飾りをつけ目印にしています。		